

今月の写真：「屏風岩」(伊南村)

伊南村の檜枝岐村境の近くにそびえる屏風岩です。その下を流れる伊南川の清流とともに見事な景色を見せ、紅葉の名所になっています。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・まるごと南会津地産地消フェスティバル！
 - ・農林水産大臣賞を受賞した「メリー」ほか
- ひとくち普及情報
 - 従来のナメコのイメージを一新“福島N2号”
- 私と南会津
 - 神奈川県相模原市 河原田元信さん
- 南会津の木のはなし
 - 鎮守の森(檜枝岐村)
- 今月のコラム
 - 家庭菜園の新たな取り組み
- 研修会・講習会等お知らせ

平成16年10月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

まるごと南会津
地産地消フェスティバル！



南会津の魅力を地域の皆さんに紹介する「まるごと南会津地産地消フェスティバル2004」を、去る9月18、19日の両日に田島町の御蔵入交流館で開催しました。

数々のイベントが行われたこのフェスティバルでしたが、南会津農林事務所では「南会津木材フェア」を行いました。

この木材フェアは豊かな南会津の森林、その恵みである木材に触れていただこうと、いろんな催しを用意しました。

大きな原木の展示、ヒノキのチップの香りがいっぱいの「ウッドチッププール」、木材が見るうちに形を変える「こね鉢作り実演」、自分だけの一品を作る「コマづくり・箸づくり」、木のおもちゃいっぱい

のおもちゃ遊び」、簡単に作れて走らせるのが楽しい「ウッドカーレース」や大工さんの技に近づく「大工さんの仕事」、「カンナけずりコンテスト」、「日曜大工教室」です。

期間中は少し雨もあったもののおむねきれいな秋空で、南会津郡内だけでなく周りの地域からも大勢の皆様を訪れていただきました。それぞれの催しも好評で、木の棒を小刀やヤスリで削り、熱心に箸を作る人、木の車を作り、何度も走らせては調整を繰り返す子供、チッププールで遊ぶ子供やチップを楽しそうに袋に詰めてお土産に持って帰る人たちなど、皆さんそれぞれに楽しんでいただけました。

19日には、この時期のもう一つの森の恵み「きのこ」をふんだんに使った「きのこ汁」のふるまいも行いました。用意した300人分が1時間足らずでなくなるなど、こちらも皆様に喜んでいただけました。



(上写真) コマづくりの様子。うまく削れるかな？
(下写真) カンナけずりコンテストの様子。

(地域農林企画室、森林林業部)

農林水産大臣賞を受賞した「メリー」

9月3日、郡山市のJA福島郡山五連ビルにおいて「第31回福島県花き品評会」が開催されました。福島県内から切花が158点、会津管内からは44点が出展されました。南会津で振興している花き、リンドウは12点の出展でした。

出展花き全体の中で「農林水産大臣賞」に輝いたのは、南郷村の齋藤明さんが育成されたリンドウ、「メリー」でした。「メリー」は上部から下部までスプレーに開花するピンクリンドウで、一般の消費者がイメージするリンドウとは容姿が異なり、意表をついた品種です。その独自性が評価され、受賞となりました。



以前にも、齋藤明さんが育成した、紫リンドウ「かせん」、深い紅色リンドウ「真紅」が県内で開催された品評会で高い評価を受けました。南会津管内では、齋藤明さんの育成品種がリンドウ振興に活躍しています。これからも、ますますのご活躍をご期待申し上げます。

以前にも、齋藤明さんが育成した、紫リンドウ「かせん」、深い紅色リンドウ「真紅」が県内で開催された品評会で高い評価を受けました。南会津管内では、齋藤明さんの育成品種がリンドウ振興に活躍しています。これからも、ますますのご活躍をご期待申し上げます。

(農業普及部)

水田農業改革アクションプログラムの中間進行管理を実施！！

水田農業改革アクションプログラムは、水田農業を抜本的に改革し、本県農業の再構築を図るため、米政策改革を契機として、「国内食糧自給率100%(カロリーベース)の達成」をスローガンに、収益性の高い農業経営の確立と米の消費拡大、活力ある生産構造の確立を目指すこととして、福島県水田農業改革推進本部が本県独自の取組みとして策定したものです。



このアクションプログラムの着実な推進のためには、施策及び目標値の進行管理を行い、施策を評価・検証することが必要であることから、「南会津地域水田農業改革推進本部幹事会」を平成16年9月8日に田島合同庁舎で開催し、中間の進行管理を行いました。

会議では、「水田農業改革のために講じる施策」の52項目について、JAや町村、県のこれまでの取組みについて検討・評価を行うとともに、①特別栽培とエコファーマーによる栽培で環境にやさしい米づくりの推進、②水稻直播栽培、③地産地消を核とした大豆の作付拡大、④トマト・アスパラガス・りんどう・かすみそう等の野菜・花きの作付拡大、⑤認定農業者等意欲ある担い手への農用地の利用集積を、今後の重点推進項目として取り組むことといたしました。水田農業改革と地域水田農業ビジョンの実現に向け、皆様の御協力をお願いいたします。

(農業振興部)

ひとくち普及情報

従来のナメコのイメージを一新”福島N2号”

(森林林業部)

ナメコは、古くから多くの人に食べられてきましたが、ナメコの特徴であるヌメリや形態などのために料理法が限定され、消費が伸び悩んでいます。

このため、いろいろな料理に適するナメコを作るために、福島県林業研究センターが、従来のナメコのイメージを一新した”福島N2号”を育成・開発しました。

今年から下郷町林業振興協議会にご協力を願い、会員の方々が栽培を試行しています。

福島N2号の特徴は、傘が極めて大型なことです。



大型のため、カットまたはスライスしたり、裂いたりの料理が可能となりました。

今回開発した福島N2号を、当地方の民宿、旅館の地物料理にしようと、9月3日に湯野上温泉の民宿の方々8名に民宿「紫泉」に集まっていただき、汁物等2品の料理を試食しました。感想を話していただき、最後に福島N2号を各自が持ち帰って料理法を創意工夫することとしました。地域の特産品になることを願っています。

ベビーブーム時代に生まれ

神奈川県相模原市 河原田 元信さん
(伊南村出身)



私は団塊の世代に生まれ、昭和20-30年代を伊南村で過ごしました。地域の行事も活発で、活気に溢れた時代ではなかったかと思います。その後、会津若松、山形、仙台、東京と移り、現在は相模原市に住み、僅か数坪の庭の手入れに四苦八苦しています。

小さいころの思い出としては、いろいろな方が書いておられるように、自然を心いくまで満喫できたことでしょう。舌を真っ白にしながらグミを食べたり、冷たい沢で岩魚の柔らかいぬるっとした感触に心を躍らせたり、小学校の大銀杏の下で黄金色の葉を投げあいながら遊んだり、きらきら輝く雪上を歩きながら登校したりと。今なら、カメラをもって飛び回りたくするような情景があちこちにありました。もちろん冬の厳しさは格別で、積雪で停電しランプの下での夕食、毎朝の日課が道路に積もった1m近くの雪踏みだったりと。とにかく、厳しくも全てを受け入れてくれる自然に囲まれていたような気がします。

その後、帰郷するごとに会津の風景が変化してい

くのに驚かされます。桑畑は無くなり、水田は大型に、さらに稲作からトマト栽培、リンドウ栽培へと多様化。屋根は茅葺からトタン葺きに。そしてなんと言っても道路の整備、駒止峠にトンネルが出来て帰省が便利になりました。山々も少しずつその姿を変え、岩魚を取りにいったいくつかの沢が草木に埋もれてました。

時折仕事で行った海外の風景を前に会津を思い出すことがあります。赤茶けた砂だらけのカリフォルニアや巨大な岩盤に立つヘルシンキと比較して、幾重にも重なる山の合間を流れる清流、四季折々細やかに変化する風景など繊細な南会津の自然に気付かされました。

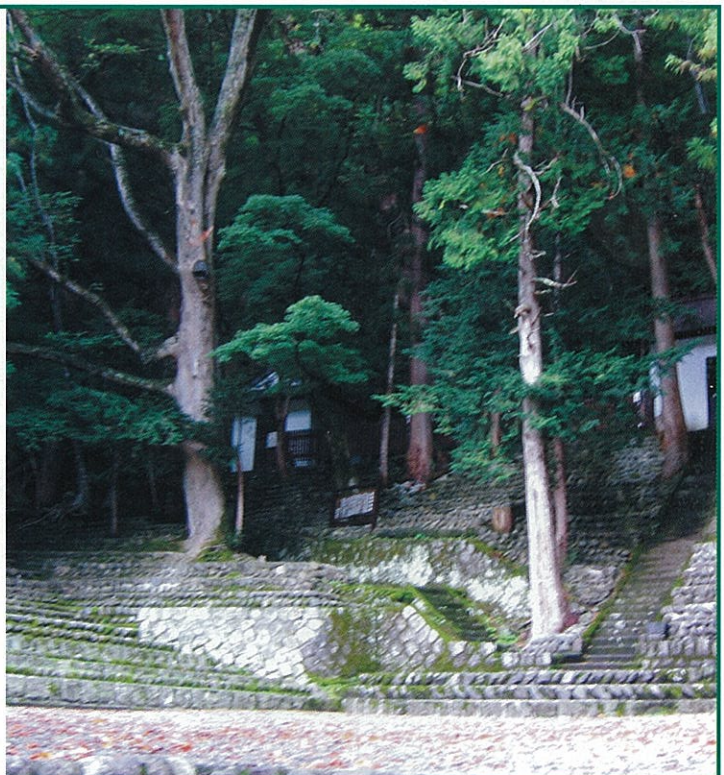
環境汚染、エネルギー不足が大きな話題になっている現在、さわやかな空気と水を育む南会津の自然資源は何にも変え難いものです。高齢化など多くの課題を抱えていると思いますが、みんなの知恵を出し合い、この自然と共生して行ければと考えます。

南会津の木のはなし

鎮守の森

(檜枝岐村産業建設課)

「鎮守の森」は村の中心部にあり、鎮守神（駒形大明神・燧大権現）と抱瘡神が祭られております。村民は毎年、初詣と村祭礼（5月・8月）には、この森へお参りに訪れます。村祭礼の夕方からは「檜枝岐歌舞伎」を奉納しています。「鎮守の森」は、モミ・トチノキ・ケヤキが主であり、面積的に広くはありませんが、安らぎを与えてくれる場所です。またこの森は、福島県で「緑の文化財」に指定されております。



家庭菜園の新たな取り組み



今年4月より4年ぶりの単身生活が始まった。職場から1kmほどはなれた公舎で、どういう訳か区画された畑(2坪程度)付きである。この畑を使うにあたり、家(棚倉町)でも1aほどの家庭菜園があるので、あまり手がかからないネギ、トウモロコシ、エダマメを栽培することにした。

5月初旬より、畑の耕起からはじまり、ネギ苗の定植、トウモロコシ、エダマメのは種と続いたが、半月後、トウモロコシ等が発芽不良のため、追いまきすることになった。管理作業は勤め帰りの夕方や休日に、愛情(?)こめて行った。

手入れをすればそれなりに生長し、収穫する喜びを味わうことができたのだが、トウモロコシの収穫前日、鳥獣の被害に遭い、それも良品?がことごとくやられてしまった。かくして、当地域の栽培環境を把握せず、鳥獣対策をしなかったためトウモロコシの収穫はほぼ皆無となった。その後、その後作としてハクサイ、ダイコンをまき、現在、ほぼ順調に生育している。

2000年センサスでは、南会津地方には経営耕地面

積は3,787haあり、うち耕作放棄地は574haに及んでいる。当地方の人口は33,894人(平15.10.1現在)、耕地放棄地は一人当たり約170㎡のひろさになる。一人でも多くの人が、意欲的に有効活用すれば遊休農地の解消につながるのだが.....。そんなことを思いながら、菜園の畝間の草むしりをしている。

遊休農地の解消にむけ、前から種々の取り組みが行われてきた。そんな中で、地区によりソバ等が定着、拡大し、それに関連する機械等を事業で導入、また、町農業委員会による遊休農地解消の啓発活動や一斉耕耘日の設定、調査事業によるモデル地区の情報収集など新たな取り組みが出てきている。

地域の実情に応じて、関係機関・団体のきめ細かい対応とその推進方策が必要であり、それが南会津地方の「担い手育成確保」、「園芸産地の育成」等の農業振興につながると思う。

(農業振興部長 影山 正志)

～研修会・講習会等お知らせ～



内 容	月 日	場 所
①工作用機械の安全操作	11月2日(火)	農業短期大学校(矢吹町)
②トラクタ運転免許取得	11月8日(月)～12日(金) 11月15日(月)～18日(木)	農業短期大学校(矢吹町)
③小型農業機械の点検整備	11月25日(木)	農業短期大学校(矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100

PRINTED WITH SOY INK

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。